

グラウンドマンホールの計画的維持管理をサポート

背景

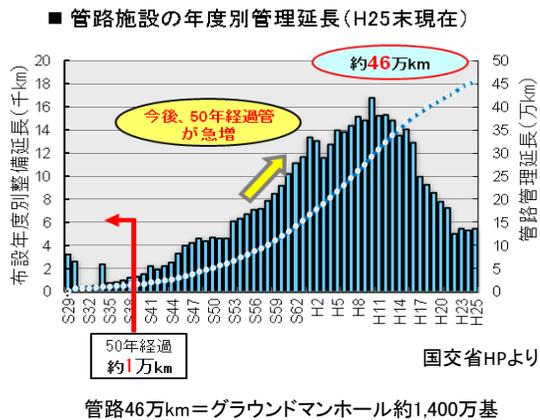
我国の下水道普及率は77%（H25年度末）に達し、下水道事業が建設から本格的な維持管理の時代へと移行する中で、平成26年7月には、「新下水道ビジョン」が策定されました。また、H27年には水防法等の一部改正が行われ、今後の下水道事業の課題や方向性として、アセットマネジメントや多発する浸水被害対策としてのリスクマネジメントの確立などが示されました。

下水道の顔であり、管路管理の入り口であるグラウンドマンホールも、これらの課題解決の方向性に沿った適切な維持管理が求められます。私たち日本グラウンドマンホール工業会は、グラウンドマンホールの適切な維持管理を支援してまいります。

グラウンドマンホールの現状と課題

グラウンドマンホールは、全国に約1,400万基設置されており、そのうち約300万基がリスクをはらんだものとなっています。具体的には、車両通過による蓋表面の摩擦（スリップ）やガタツキ、硫化水素による腐食等の老朽化、さらには、錠や蝶番がない古い構造に起因する蓋の外れや飛散（機能不足）が顕在化しています。このような状況を受け、グラウンドマンホールの維持管理や改築に関する制度や手引き、マニュアル類が整備されてきており、これら基準類に基づいたグラウンドマンホールの適切な維持管理と改築が求められています。

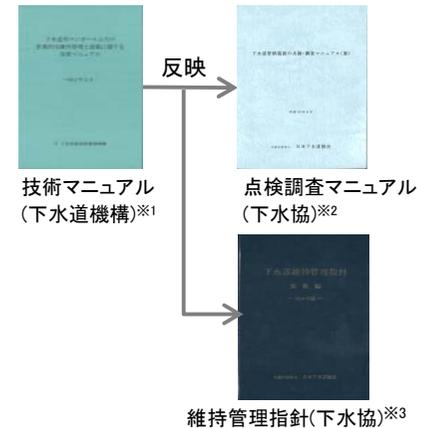
管路のストック量



機能不足・老朽化によるリスク



グラウンドマンホールの維持管理・改築の手引き、マニュアル類



標準耐用年数

		標準耐用年数
マンホールふた	車道	15年
	その他	30年
マンホール		50年
管渠		50年

マンホールふたは他の管路施設に比べ耐用年数が短い

- ※1 下水道用マンホールふたの計画的維持管理と改築に関する技術マニュアル((財)下水道新技術推進機構)
- ※2 下水道管路施設の点検・調査マニュアル((公社)日本下水道協会)
- ※3 下水道維持管理指針((公社)日本下水道協会)

グラウンドマンホールの維持管理における要望

✓グラウンドマンホールの維持管理計画や長寿命化計画を策定する際の策定手順、積算の方法等を知りたい

✓適切な点検・調査手法、基準となるマニュアルや判定基準がわからない
 ✓マニュアル等が沢山あってどれを見ればいいのかわからない

どれを見ればイイの？
どこに書いてあるの？

✓グラウンドマンホールを活用した下水道広報の事例を知りたい

✓近隣都市や全国の都市のグラウンドマンホールの維持管理事例を知りたい

✓グラウンドマンホールの維持管理を効率的に行う方法を知りたい

ふたは交付対象？
標準耐用年数は？
管渠：交付対象
標準耐用年数50年

グラウンドマンホールに関するご要望に当工業会がお応えします

グラウンドマンホール維持管理推進委員会の活動内容

グラウンドマンホール維持管理推進委員会は、グラウンドマンホールの維持管理に取り組む事業者をサポートし、グラウンドマンホールの適切な維持管理と改築を通して、市民の安全・安心な生活環境の実現を目指します。

①適切な維持管理方法を紹介

グラウンドマンホールの適切な維持管理に必要な巡視・点検・診断の方法、長寿命化計画や維持管理計画の策定、参考とすべき手引き、マニュアル類の紹介や内容解説、研修会を致します。



研修会風景

②維持管理に関する先行事例を紹介

全国のグラウンドマンホールの長寿命化計画や施設管理計画の策定状況など、最新の先行事例をご紹介します。



③下水道広報の紹介

グラウンドマンホールを利用した下水道広報の事例を紹介します。



GKP開催のマンホールサミットの様子



下水道フェアの事例